

平成29年度 学校評価

平成30年3月20日
由利本荘市立由利中学校

評価領域	学習指導
------	------

重点目標	・目標をもち 進んで学習する生徒・・・・・・進歩（文）	P L A N
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が身に付き、家庭学習の習慣化も図られ、目的意識をもって学習に取り組む反面、自ら進んで発表しようとする姿勢が弱い。 ・諸調査の結果を授業改善に生かしてきたことで、成果は着実に上がってきている。しかし、男女差や個人差、学年差が大きい。生徒に寄り添う指導と、学習に対する情意面のよさを生かし、「なりたい自分」を目指して「夢あきらめない」で努力する生徒を育てたい。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業のやりやすい学級づくり」と「自発的に学習に取り組む姿」 ②「授業改善」による「分かる できる 楽しい授業づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省指定「外国語教育強化地域拠点事業」公開研究会 ・日本新聞協会指定「NIE実践校」としての継続実践 ③「個への対応」による「基礎・基本の定着」と「家庭学習の充実」 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①「生徒指導の三機能を生かした授業づくり・学級づくり」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士、教師と生徒の「よりよい人間関係」づくり ・振り返りの充実による次へ学びの見通しと主体的な学びの構築 ②「授業改善による授業力の向上」 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の問いを生かした「課題づくり」と「振り返り」の充実 ・「課題解決的な学習活動」の工夫と「板書計画」の立案 ・研究指定校としての実践を通じた全校体制での授業改善の推進 ③「補充的な学習の充実」（個への対応）と「家庭学習の充実」 <ul style="list-style-type: none"> ・YCSや全校一斉テストを活用した主体的な学びの確立 ・授業と家庭学習を結び付ける学習サイクルの確立 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒のよさを認め、伸ばす指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査やアンケート結果を生かした実践的な授業改善の推進 ・全校体制で取り組む「個に応じたきめ細かな指導」の充実 ・教科面談を通じた個に応じた学習方法の工夫と改善 ・研究主任を中心とした研究体制の確立と研究実践の推進 ②「授業研究会」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会による「授業改善のための共通実践事項」の共有化 ・「外国語教育強化地域拠点事業」公開研究会での実践発表 ・小中高、AIUとの連携による授業実践と授業力の向上 ・教科・領域でのNIEの継続的な実践の推進 ・諸調査の分析と具体的改善策の推進 ・教科の枠を越えた「チーム由利中」としての取組の推進 ③生徒が主体的に学ぶ機会と場の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携による「English Festival」の実施 ・「国際教養大学」との「英語」交流授業の実施（1・2年生） ・「YCS」の充実（「回復学習」はロングで習熟度別指導）、 ・「全校一斉テスト」の工夫（漢字・計算・英単語） ・「家庭学習強調週間」みんなで6万分キャンペーン（3回実施） ・「チャレンジタイム」の実施（県学習状況調査過去問の活用） 	D O
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎「全国学力学習状況調査」の結果から <ul style="list-style-type: none"> ・国語Aと国語Bは県平均と同じ、数学A、数学Bは県平均を上回っている。特に、数学Aは7ポイント、数学Bは5ポイント県平均を上回っている。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「家で、自分で計画を立てて勉強する」3年生が75.0%（県71.3%）で、学ぶ意欲と自学の姿勢がしっかりと身に付いている。 ・平日2時間以上家庭学習に取り組む3年生が53.5%（県27.2%） ・土日3時間以上家庭学習に取り組む3年生が46.5%（県22.3%） <p>◎「秋田県学習状況調査」の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は英語が県平均を6ポイント上回っているが、国語・社会・数学・理科は県平均を下回っている。 ・2年生は「勉強が好きだ」と答えた生徒が67.7%（県55.1%）と数値的には極めて高いが、全教科県平均を下回った。 ・平日1～3時間家庭学習に取り組む1年生が100%（県71.0%） 平日1～3時間家庭学習に取り組む2年生が76.4%（県66.3%） 休日2時間以上家庭学習に取り組む1年生が79.4%（県53.8%） 休日2時間以上家庭学習に取り組む2年生が82.4%（県72.2%） <p>◎「生徒アンケート」の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業は楽しい」（78.9%）は前期より12ポイント上昇している。「先生たちの勉強の教え方は分かりやすい」（91.6%）、「先生はできるようになるまで教えてくれる」（93.7%）から授業改善の成果と、「授業で分かったできたと思うことがある」（96.8%）、「学校で勉強を頑張っている」（100%）「家庭学習を頑張っている」（92.6%）と学習に対して前向きな姿勢が伺える反面、ゲームを毎日する生徒は65.3%（昨年54.2%）と増加している。 	
--	---	--

自己評価	<p>（評価）</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>（根拠）</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「数学はTTでやると分かりやすい」と答えた生徒は93.7%で、個に応じた指導は生徒に定着してきている。 ○「課題が分かって学習に取り組む」（96.8%）「まとめ、ふり返りをする」（92.6%）と授業の流れが生徒の中にしっかりと確立している。 ○生徒一人一人が学習意欲をもって、自分なりに高まろうとする姿勢が見られる。 ○文部科学省指定「外国語教育強化地域拠点事業」公開研究会で生徒のよさを多くの人に提示できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力における個人差・男女差・学年差の克服が大きな課題である。 	CHECK
------	--	---	-------

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>（評価）</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題が明確で、具体的な施策が図られている。個人差へのきめ細やかな対応を今後も継続してほしい。 ・生徒一人一人の頑張りがはっきりと見られる。しかし、テストの点数が悪いとすぐにあきらめてしまう傾向が見られるので、どんな子でも自信につながるテストの在り方を工夫して欲しい。 ・教科面談など学力向上のための意味ある施策を継続することで、さらなる成果につなげていってほしい。 	CHECK
------------	--	--	-------

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ですべての子どもが「分かった」「できた」と感得できるように、さらにTTを十分機能できるように工夫改善していきたい。 ・全員が「達成感」や「成就感」を感得して、自信につながるように「全校一斉テスト」や「万葉の桜テスト」を活用していきたい。 ・ゲームやスマホの家庭での使用については、家庭と学校が連携しながら具体的な改善策を図っていきたい。 ・教科担任が一人という苦しい状況ではあるが、教科の枠を越えた研究実践体制をこれからも継続していきたい。 	ACTION
-----------------------	--	--------

評価領域	生徒指導
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身を鍛え 最後までやり抜く生徒・・・・・・・・健康（武） ・思いやりの心もち 協力して活動する生徒・・・・・・・・協力（道） 	P L A N
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「立ち止まり挨拶」に誇りをもって取り組む生徒は着実に増えてきている。また、学校や家庭、地域の中であいさつする習慣が身に付いてきているが、依然としてまだ個人差がある。 ・無言清掃に対する生徒の意識をさらに高め、生徒会活動や全校体制で誇りをもって取り組めるようにしたい。 ・「なりたい自分」を目指し、「夢あきらめない」で仲間と共に困難や課題を克服しようとする強さや逞しさを身に付けさせたい。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「あいさつ」「無言清掃」に誇りをもって取り組む学校づくり ②「思いやりの心と豊かな感性」「生徒に寄り添う教師」の育成 ③地域や同窓会などと連携した「キャリア教育」を通して、「ふるさと由利」に生まれた「誇り」と「たくましく生きる力」の育成 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①「あいさつ 無言清掃」の励行 <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」を通じたよりよい人間関係づくりと集団づくり ・「無言清掃」を通じた勤労や奉仕の心、愛校心の醸成 ②「一人一人のよさや可能性を発揮できる環境づくり」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のよさや頑張りを認める生徒理解の充実 ・生徒に寄り添い「夢あきらめない」で夢の実現を目指す教師集団の育成 ・地域の人材を活用した生徒主体の学校行事の充実 ・生徒の言語活動をいかした集会活動の充実 ③「体験活動」と教育活動全体を通じた「キャリア教育」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域や同窓会などとの「共催」による「体験活動」の充実 ・キャリア教育の視点に立った「振り返り」の充実 ・「ふるさと由利」のよさを感じ得る機会と場の充実 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①「あいさつ 無言清掃」など生徒主体の活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒集会」や諸行事における生徒主体の活動の充実 ・小中連携、地域連携による「あいさつ運動」の充実と拡大 ・生徒による自主的な「日常活動」や「ボランティア活動」の充実 ②生徒が主体的に取り組む機会と場の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のよさを生かした「学校行事」の工夫 ・小中連携した活動の充実（あいさつ運動・English Festival） ・生徒の主体的な言語活動を取り入れた「集会活動」の工夫と充実 ③ 地域や同窓会との連携による「体験活動」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した「職場体験」「キャリア講演会」などの充実 ・「キャリア・アンケート」の実施と「振り返りカード」の工夫 ・消防団など地域との連携による「校内駅伝大会」の実施 ・同窓会東京支部の修学旅行における協力体制の確立 	D O
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎「生徒アンケートの結果から」 <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」（91.6%）、「学校は安心できる」（91.6%）と答えた生徒が9割を超えている。 ・「先生はあなたの考えや意見をよく聞いてくれる」と答えた生徒は97.9%で共感的な人間関係が築かれている。 ・「きちんとあいさつに取り組んでいる」（100%）、「無言清掃にきちんと取り組んでいる」（100%）ことから、この2つが由利中生の「型」として完全に定着したといえる。 ・「自分の夢をもっている」86.3%（昨年85.4%）生徒の割合が増えたことは、「なりたい自分」を意識した指導の成果といえる。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校（学級）としてまとまって行動する」生徒は97.9%で、集団としての一体感の醸成がはっきりと伺うことができる。 ◎「全国学力・学習状況調査」（生徒質問紙）の結果から <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」88.3%（全県80.6%）から自己肯定感の高まり、「地域のためになる活動に取り組みたい」100%（全県90.9%）から地域との関わりの深さが伺われる。 ◎「キャリアアンケート」の結果から <ul style="list-style-type: none"> ・「相手のよい面を進んで見付ける」生徒、「相手の気持ちを考えながら人と接する」生徒がほとんどで「人間関係形成・社会形成能力」の高まりが見られる。 ・「実現できそうな夢や希望をもつ」生徒が9割を超え、本校の課題である「キャリアプランニング能力」の向上が見られた。 ◎「保護者アンケート」の結果から <ul style="list-style-type: none"> ・教師の「生徒理解」「教師の指導」「教師の評価」が高い数値を示しており「生徒に寄り添う指導」の定着が図られたといえる。 	
--	--	--

	(評価)	(根拠)	
自己評価	A	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「あいさつ」「無言清掃」は由利中の「型」となった。 ○「駅伝大会」や「修学旅行」を通して、同窓会や東京支部、地域との連携がさらに深まった。地域と連携した学校行事を行うことで生徒数の減少に対応することは（「共催」による「共存」）本校の特色として是非とも継続していきたい。 ○きまりを守り、集団としての高まりが見られた。 ○生徒と教師の共感的な人間関係が築かれている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「あいさつ」の取組に「個人差」が見られる。学校だけでなく、家庭や地域内での取組の向上を図っていきたい。 ●生徒数の減少に伴う職員数の減少による「部活動担当者」の確保が極めて厳しい状況にある。 	CHECK

↑ 評価基準 ↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

	(評価)	(意見)	
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが大変よくあいさつする反面、あいさつしない大人が多いので、地域や家庭での協力が必要である。 ・地域の活性化を図るために消防団としての共催はこれからも継続していきたい。今後は、避難訓練への消防団の参加も是非検討して欲しい。 ・地域でのボランティア活動など、大人が教えながら育てるという姿勢を地域全体で培っていきたい。 ・校内でのよりよい人間関係の醸成と教師が子どものために心を砕いていることがよく分かる。 ・校報を通して学校での子どもたちの様子がよく分かる。 	CHECK

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会や地域との連携、共催は由利中の特色としてこれからも大切に継続していきたい。 ・共感的な人間関係をベースとして、学習・生活の両面で子どもたちの頑張りやよさを生かした指導を今後も心がけていきたい。 ・生徒数の減少による固定化された人間関係を打破するために、同窓会や地域の方々と交流する機会と場を積極的に取り入れ、子どもたちが「外の広い世界」を体験したり、「先輩の生き方」に触れる機会を意図的に設けながら、「夢あきらめない」強さを育てたい。 	ACTION
-----------------------	---	--------